**【調査成果の概要】**

**（遺構）**

今回の調査では、東半（調査区①、③）では多くの柱穴や礎石のほかカマド跡等を検出しました。西半から南にかけて（調査区②、④、⑤）では、東西方向から南北方向にＬ字に屈曲する溝１条を検出しました。

溝跡　：　調査区の西半（調査区②、④）で北東から南西に続き、調査区の南西部（調査区⑤）で東に約 90 度屈曲し、Ｌ字形を呈します。幅 6.0m前後　深さ 0.6m程度を測ります。調査区②では、その端が検出されていますが、調査区④ではさらに東方向に調査区外に続きます。

柱穴　：　調査区の東半（調査区①、③）で検出しました。径 0.3m程度の穴で、①深さ 0.2m程度までの浅いもの（礎石の抜き取りか）、②底部に礎板となる石をおいているもの、③礎石を据えるもの、④深さが 0.3m以上のものの４種類を検出しました。多くの柱穴が見られるため、建替えなども行いながら、多くの建物があったことがわかります。ただ、どのような建物（大きさ等）であったのかは現在検討中です。また、当時の生活面に置かれていたとみられる礎石が残存している状況が調査区①、③ともに確認されました。同調査区ではカマド跡も確認されていますが、カマドはもともと生活面より上に構築されたものです。それらの痕跡が残っていることから、本地点が当時の状態を良く残すものと考えられます。

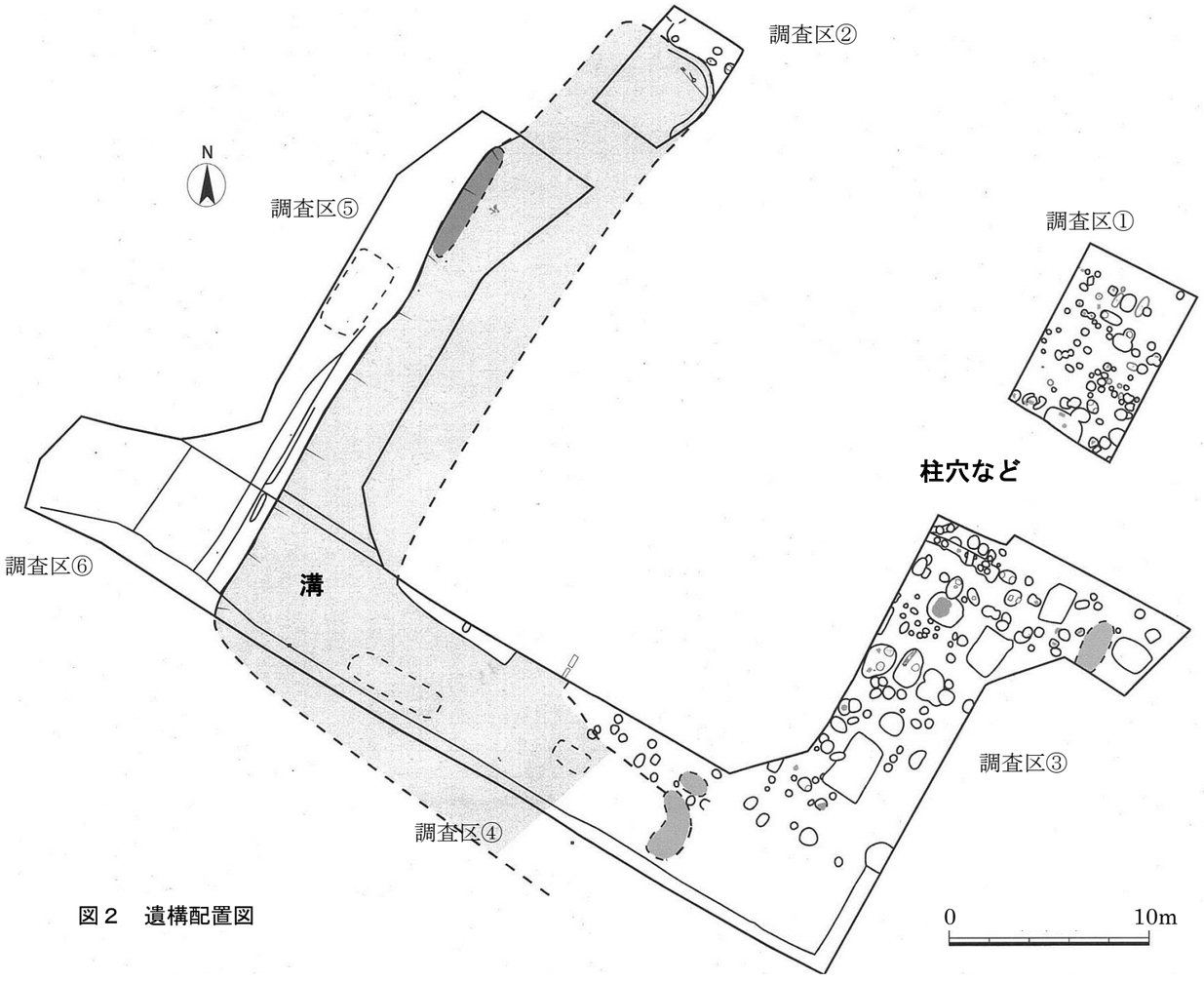


図２　遺構配置図

**（遺物）**

今回の調査では、多くの遺物が出土しています。特に溝跡では、その埋土に水分が多かった為、木製品が良好に残存していました。

土器類　－　土師器皿・焙烙、瓦質土器の鉢、陶磁器では、信楽焼の擂鉢・甕、備前焼の甕などのほかに、中国より輸入された青磁、白磁　染付も出土しています。

木製品　－　生活用具と見られる漆器椀や柄杓、下駄、祭祀具と考えられる卒塔婆、馬形代、遊戯具である将棋の駒、荷札・付札とみられる木簡など多様なものが出土しています。

石製品　－　硯、砥石、碁石などが出土しています。

馬形代

木簡

将棋の駒（桂馬）

調査区①

調査区②柄杓

調査区②　漆器椀

調査区②

大津市歴史文化基本構想策定関連事業　　2018 年 11 月 17 日

# 坂本城（さかもとじょう）跡（あと）発掘調査現地説明会資料

大津市教育委員会文化財保護課

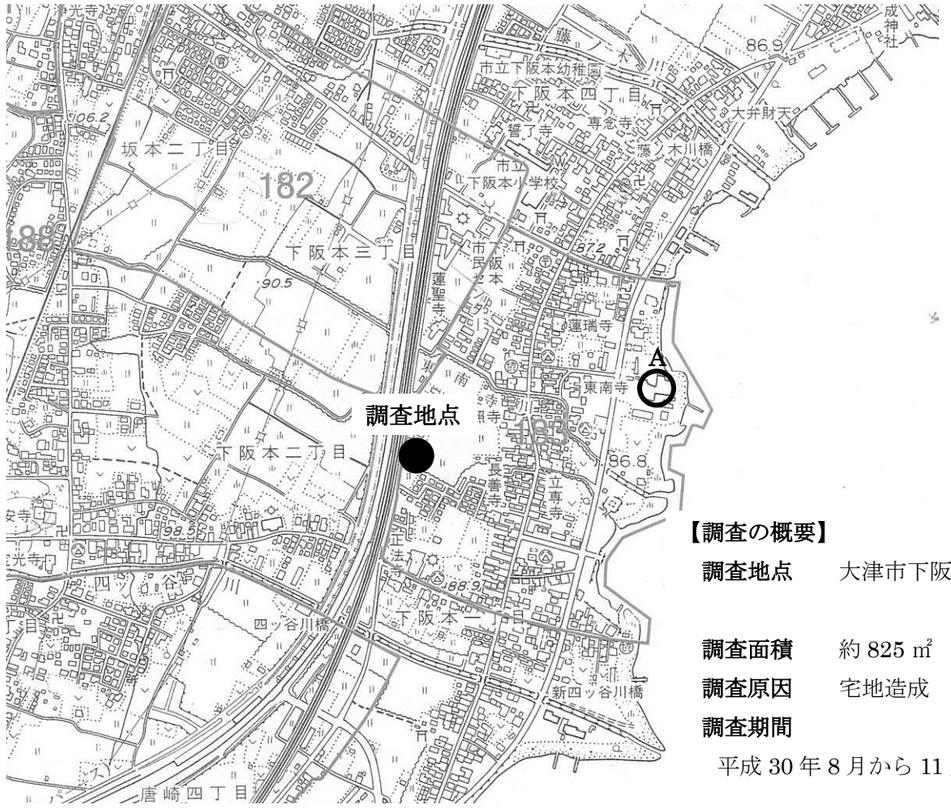


図１　調査地位置図

**【調査の概要】**

**調査地点**　大津市下阪本一丁目、三丁目

**調査面積**　約 825 ㎡

**調査原因**　宅地造成

**調査期間**

平成 30 年 8 月から 11 月（予定）

**【坂本城の概要】**

坂本城は、元亀二年（1571）の延暦寺焼き討ち後に、織田信長の命により明智光秀（あけちみつひで）によって築かれた城です。その後、天正一〇年（1582）の本能寺の変の後に焼失します。しかし、すぐに豊臣方の丹羽長秀（にわながひで）により再建され、杉原家次（すぎはらいえつぐ）、浅野長吉（あさのながよし）（長政（ながまさ））と城主が代わり、天正一四年（1586）頃に、浅野長吉により大津城が築かれ廃城となったと考えられています。

この坂本城については、城を描いた絵図などはこれまで見つかっておらず、正確な位置や曲輪（くるわ）の配置（縄張（なわば）り）等の詳細はまったく不明でした。一部文献上の記述や、現在に残る地名、地形などより、その中心は現在の東南寺の辺りにあったものと推定されていました。

昭和 54 年に、東南寺の東側の湖岸部で発掘調査が実施され（図１　A の地点）、瓦をはじめとする多くの遺物とともに建物跡が検出されました。出土した瓦は建物にともなうものと考えられ、検出した建物は城の中枢部にあたり、本丸の一部ではないかと想定されました。

そして、この他に行われた発掘調査の成果や、地名・地形などより、現在、本丸、二の丸、三の丸をもつ縄張り（図３）が想定されています。

**【今回の調査成果よりわかったこと】**

①　溝跡から出土した遺物は、15 世紀後半から 16 世紀前半のものが多い。

②　柱穴、礎石など、東半で検出したものも同様の時期のものと見られる。

③　16 世紀後半とみられる遺物（土器・瓦など）も溝跡などから少量出土している。

⇒１）　当地点は、15 世紀後半から 16 世紀前半にかけて集落（町屋）が展開していました。
これは、坂本地域が全国的に見ても発展していた時期で、集落範囲が広域に広がっていたのではないかと考えられます。（これまでは絵画資料などでは西近江路の町並みが描かれ、松の馬場周辺では発掘調査（下阪本小学校や西大津バイパス建設に伴う調査等）により町屋が広がっている状況が確認されていました。今回の調査でさらに広い範囲に展開している可能性が出てきました。）

⇒２）　16 世紀後半になると、遺物の出土量が極端に減少します。

A　坂本城の大津城への移転に伴い、町屋も移動しており、その際に生活用具等も含めて持っていった為ではないか？

B　坂本城の時期には集落（町屋）が縮小しており、すでにそれほど多くの人がいなかったものか？

（A、B はともに可能性があり、今後の課題です。）

（坂本城との関連について）

推定される縄張りの三の丸及び外堀の南西角に当たる地点でしたが、今回の調査では、それらに関連するものは検出されませんでした。なお、今回の調査地点の北約 200ｍの地点で昭和 63 年に実施された調査でも、推定される外堀の西辺に該当するところに調査区を設定していますが外堀は確認されていません。また、東半で検出した柱穴等についてもその大半が城よりも前の時期の可能性が高いこと、検出された溝自体がその深さなどより外堀とは考えにくい点などより、本地点に「城内」といえるような状況は確認できませんでした。つまり、今回の調査により、これまで推定されてきた外堀の西辺および南辺は見られないこととなります。これまで、坂本城の縄張りの復元については、地形や地名などを根拠にされてきましたが、発掘調査成果をもとに、再考の必要が出てきたといえます。

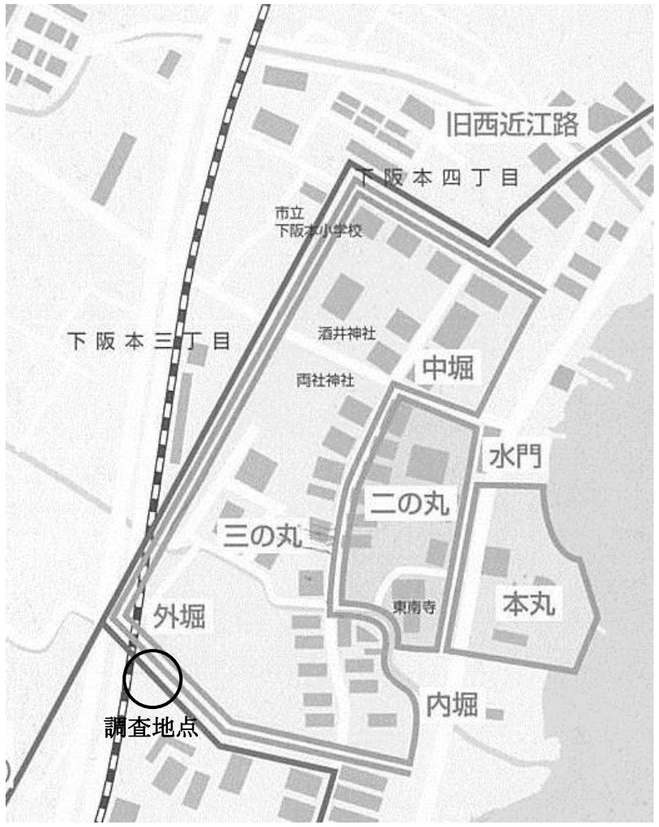


図３　坂本城跡縄張図（大津市 1999『図説大津の歴史　上巻』より）